

作品タイトル	釜ヶ崎・オブスキュラ
作家名	松井蛙子 Kaeruko Matsui
制作年	2019年
時間	10分

おっちゃん達に釜ヶ崎を案内してもらいながら撮影をした結果、彼らの記憶と共に街を歩くことになった。画面に映る風景のいくつかは既に無い。かつて労働者による暴動が頻発したイメージがあった釜ヶ崎は、撮影時には高齢化がすでに急加速していた。コマ撮りのコミカルさが呼び水となって、高度成長期から今日に至る流れの中で、この街に生きる人々の様子を垣間見ることができればと思う。高校に入学したのぼるさんは見事卒業し、ヘルパーの資格も取得して活躍中。時々、釜凹バンドとして岸和田でも路上ライブを行っている。出演者はそれぞれ新たなチャレンジを続けている。

松井蛙子略歴

- ・『ある家族の肖像』「第14回香川レインボー映画祭」他
- ・『釜ヶ崎・オブスキュラ』「イメージフォーラム・フェスティバルーヤング・パースペクティヴ 2017」、「那須国際ショートフィルムフェスティバル」、「ハンダイ映像祭 2016」グランプリ、WASHIDA 賞他。
- ・『Orusuban』「第16回広島国際アニメーションフェスティバル〜日本アニメーション大特集 27〜」他。

作品展示

「第14回広島国際アニメーションフェスティバル〜ASIFA-JAPAN30周年記念展示」他

JISEN CONTEMPORARY SHORT FILM & VIDEOのご案内

JISEN CONTEMPORARY SHORT FILM & VIDEO は岸和田文化事業協会主催の短編映像展、テーマは「歴史」です。2019年度を「現代アート年」とし、約10ヶ月間、毎月一映像を展示、そして、2020年1月にはアートウィークを設け、現代アートの展示とワークショップを催し、その際にも展示致します。6月からは岸和田市文化事業協会によって招待、および公募された映像が約一ヶ月毎に展示されます。